

「臨床に役立つ歯科用 CAD ソフト入門 — 基本操作と実践的活用 —」

松本 拓也

本研修では、歯科用 CAD ソフト(exocad)の基本操作から実践的な活用方法までを解説する。初めにオーダー画面における入力手順と補綴設計に不可欠なセメントスペースの設定等について説明する。さらに、他の環境からのデータ移行や口腔内スキャナー (IOS) データの取り込み方法を紹介し、臨床で役立つデータ管理の工夫を解説する。その後、実際の臨床ケースを用いてデザイン設計し、日常的によく用いる便利な機能や操作の工夫について紹介する。今回の研修を通じて、私が実践している歯科用 CAD ソフトの活用方法が、皆さまの日常臨床の一助となれば幸いである。

「干渉の少ない補綴装置製作のために～our daily workflow～」

酒井 美穂

近年、急速なデジタル化が進み、歯科技工士がデジタル機器や、ソフトを使い補綴装置製作をすることが必須となりつつあるが、口腔内スキャナーの保険適用によりそのスピードに拍車がかかっている。

しかしながら、私たち歯科技工士の製作した補綴装置の目標はアナログやデジタルの方法論にとられることなく、口腔内に調和し既存の機能を阻害することなく生体に組み込まれ、機能を満たすものでなければなりません。

日頃、私たちがどのように下顎運動を考慮し、干渉の少ない機能的な補綴装置製作に取り組んでいるのか。

単冠の症例ではありますが、アナログでの wax up 方法や歯科用 CAD ソフト(exocad) でのデジタルアーティキュレーターを使用した wax up デザインなどアナログとデジタル、両方面からのアプローチを弊社のコンセプトとともにお話いたします。

「歯科用 CAD ソフト を用いた 3D モデルの製作と活用」

南里 優斗

歯科用 CAD ソフト(exocad)の Model Creator は、石膏模型や口腔内スキャンなどから得られる PLY・STL・DCM などの各種データ形式に対応し、精度の高い物理的歯科模型を設計できるソフトウェアモジュールです。モノリシックモデル（一体型）やデタッチャブルモデル（取り外し可能）、さらにインプラントモジュールとの連携によるラボアナログや歯肉マスク付きモデルの製作も可能です。出力データは STL 形式のオープンフォーマットで生成され、exoprint 設定が行われていれば、3D プリンター用ソフトウェアに自動で読み込まれ配置されます。本モジュールは、デジタル印象から正確かつ効率的に物理モデルを製作するための有用なツールとして、歯科技工におけるデジタルワークフローの高度化に貢献します。本講演では、その活用方法と実例について紹介します。